

ISSA海外論文要約より

社会福祉の計画



L. Ristic (ユーゴスラヴィア)

本稿には、社会福祉を計画する場合の基本原則と方法が論述されている。

組織された社会の発展が計画されるべきである。計画を通じて、近代社会にその発展の方向を定め、主要な構成要素に大きな影響を与える。したがって、われわれは社会福祉を社会経済発展のある恒常的な社会的機能とある重要な要素とみなしている。社会福祉の目的は、戦争から生じたあるいは過去の社会から与えられた社会的な諸問題を解決することであり、また、社会経済発展、生物学的や人口統計的な変化(老齡, 廢疾)などから生じた新しい諸問題を解決することである。

社会福祉は社会開発の水準や社会の経済的

基盤により、観念的にまた文化的に決定される。その最終的な目的はある完全な社会保障制度の展開で、それには社会扶助のもつ一時的に普及した特色は何でも含まれる。

われわれはしばしば社会福祉の完全かつ複雑な描写を忘れて、各部門で制度化され、また特殊化された個別的な構成要素だけに注意している。これは社会的な資源と成果の好ましくない「雲散霧消」を招くかも知れない。

社会福祉の計画された発展は、毎日の生活と労働のすべての部門を見通しながら、一般的な社会生活の状況に適用されなければならない。

社会福祉発達の計画に用いられる主要な基本原則は、次に示されるとおりである。

社会福祉は単なる社会的消費の一部門ではなくて、資源と要員のニードをともなうある制度である。

社会福祉の型はわれわれの社会制度のもっている基本原則、社会政策の目的、および社会福祉の機能に調和していなければならない。

これらの基本原則と衝突しないことを条件として、社会福祉の伝統的な型は認められるであろう。

上部機関と社会的な存在(使用者, 政府の医療サービスなど)の施設と資源は十分に利用されるべきである。

社会福祉を強化するためには、地方レベルで行なわれる特殊なサービスの開発が必要である。

社会福祉制度におけるある困難と時代遅れを克服し、また、計画期間中に社会福祉の発達を推進するために、計画は社会福祉の立場、役割および機能を決定しなければ

ならない。

社会福祉発達の計画に用いられる展開の段階は次に示されるとおりである。

1. 現在存在している統計的な情報と文書、その他の資料や研究にもとづき、前回の計画期間に実現された社会福祉発達の分析。
2. 計画期間全体にわたる社会福祉各部門の将来のニーズがもっている傾向の予測。この予測は次にもとづいて行なうことができる。

各ニーズの確認とそれらの発達の予想。

前回の計画期間におけるそれらの各ニーズの分析。

社会的な各ニーズと関連をもつその他の傾向（人口の年齢構成、出生率などの変化）への注目。

3. 各ニーズが確認された場合に、次期計画期間に対する目的と優先順位を決定することができる。

4. その場合には、全期間に必要とされる資源を決定するために、計画の最初の説明は明確に述べられるべきである。
5. さらに、計画の最終的な説明が設計され、資格を有するすべての機関はその計画を知らされ、その計画の討議が行なわれる。
6. なんらかの必要な調整が行なわれた後で、その計画は最終的な承認のために提出される。

これらの段階は相互に密接な関係をもっている。経済的および社会的な傾向は、いつでも心にとめておかれるべきである。国民所得の増大に特殊な注意が払われなければならない。その場合にだけ、社会福祉発達は社会全体の発達と一致するであろう。

Planiranje socijalne zastite, *Socijalna politika*, No. 3-4, 1970, pp. 22-24; No. 8, '71.

農村の労働者と社会保障

Robert Weise (ブラジル)

疾病、老齢・廃疾に対して、ブラジルで農村の労働者を保護するある「基本的な制度」は、従来では、1969年9月5日にブラジル政府によって発表されたある政令で規定されていた。当初、その制度は砂糖きび産業の労働者だけを対象としていたが、最終的には、そ



の制度は農業的な企業の全労働者、農産物原料の生産者と供給者、および季節的に雇用される農業労働者に適用されるであろう。

ブラジルの農業労働者とかれらの扶養家族に対する健康保護制度は、「農村福祉・社会